

平成 25 年度 第 2 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

日 時： 平成 25 年 7 月 25 日（木） 14：00～16：30

場 所： 琉球大学医学部附属病院 3 階 がんセンター

出席者： 12 名 樋口美智子（那覇市立病院）、望月祥子（ハートライフ病院）、
吉本多佳子（沖縄県立中部病院）、宮良久美江（沖縄県立八重山病院）、
仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、奥濱杖子（県立宮古病院）、
永吉美幸（県立南部医療センター・こども医療センター）、
伊礼みゆき（居宅介護支援事業所なかがみ）、
上原弘美（沖縄県地域統括相談支援センター）、
石郷岡美穂、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）

欠席者： なし

陪席者： 3 名 小倉登茂子（県立宮古病院）、平良芳子（県立八重山病院）、井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 25 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

協議に先立ち、資料 1 に基づき、平成 25 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（4～6 月）

資料 2-1,2-2,2-3 に基づき、4～6 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」の報告書について、確認が行われた。

3. がん相談件数（4～6 月）

資料 3-1,3-2, 3-3, 3-4 に基づき、樋口部会長より、各拠点病院のがん相談件数（4～6 月）について報告があった。

4. 都道府県相談支援部会報告について

資料 4 に基づき、大久保委員より、以下のようにがん診療連携拠点病院を取り巻く現状や、情報提供及び相談支援センターの活動のあり方に関するアンケート報告などについて、
○情報収集とともに、部会活動を支えるための支援や事務局機能の強化を実施するという提案の承認、

○相談支援センターの名称は、名称を統一し病院独自の名称も併記できるといったかたちでがん診療提供体制のあり方に関する検討会に提案し最終判断を待つとの提案の承認、

○がん診療連携拠点病院機能強化事業におけるがん相談件数は、算定の基準を相談員 1 人あたり 1 日 5 件程度としつつ、カウント方法の仕方や評価内容などを引き続き検討することを部会の意見とする提案の承認、

などが協議されたとの報告があった。

樋口部会長より、増田委員から協議の場で病院の規定上の問題などあるが、各病院の事情を加味した上で患者さんにとって分かりやすい表記をしてほしいとの意見が出されたとの報告があった。

5. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策1 関連】地域の療養情報第3版の配布と普及啓発

資料5に基づき、大久保委員よりがんサポ第3版の普及啓発活動として、がん専門医療機関とがん診療連携拠点病院支援病院の17施設で説明会を次のように行っているとの報告があった。琉大病院と那覇市立病院では、院内の説明会は、病院全体ではなく各診療科の医局会議(定例会)での説明を順次行っており、沖縄赤十字病院・沖縄病院・Dr久高のマンマ家クリニックは、すでに実施済みである。なお、宮古病院・八重山病院・浦添総合病院・宮良クリニックも実施予定は決定しており、他病院も随時、担当病院が進めて行く予定である。

(2) 【施策5】がん相談内容(相談シート)の分析

吉本委員より、がん相談シートは若干の修正をしており、ファイルメーカーの案もほぼ完成で、報告シートのページからファイルメーカーに飛ぶように設定している。次回の部会の前には、皆さんに報告できる予定なので、ファイルメーカーの導入をお願いしたいとの報告があった。琉大のものは7月分(エクセル)の集計を、宮古・八重山のものはある月の1月分の集計を、まずは摺りあわせて分析していく旨が協議された。

(3) 【施策6】がん相談員実務者研修について

資料7に基づき、吉本委員より、第1回中部病院開催分は朝倉先生と調整中で、8月～9月始めに予定しており、テーマは「がん治療の今(疫学的、データの治験、先進治療や免疫療法など)」との報告があった。樋口部会長より、2回目～4回目は資料7(案)のとおり進めて、フォローアップ研修での報告も取りまとめていくとの報告があった。

大久保委員より、担当者間の事前協議で、研修はがんに関する医学的基礎知識の習得、がん相談支援業務に必要な視点と技法の習得を目的として実施するので、講義+グループワークを合わせて開催できればとの意見があり、計画案にまとめたとの報告があった。吉本委員より、具体的な対象者の明記、がん相談シートの分析、セカンドオピニオン、患者会などの事

例集を積み上げて、体系的にしていきたいとの意見があった。離島の皆さんにも、参加いただけるように土曜日開催なども検討していくことが協議された。

(4) 【施策8】学会報告(日本社会福祉会全国大会・社会福祉学会 in 岩手)

資料8に基づき、大久保委員より、拠点病院の共通の相談記入シートの運用と活用に関する学会の報告があった。学会自体が地域で働いている社会福祉士が多く、病院関係

の方はほとんどいなかった。そのため、部会として活動していることについては、一施設の活動でなく複数の施設と一緒に部会活動を行なっていることに関心を持たれた。資料中のグラフは、昨年10月～12月の拠点病院の相談事例を部会報告内容から取りまとめたものなので、定期的にフィードバックし、部会で共有していきたいとのことであった。

吉本委員より、沖縄ならではの、相談業務について、アメリカなど外国の病院との連携や外国人の方の相談について情報収集したいとの提案があった。樋口部会長より、過去に沖縄県SWの4団体と米軍病院ケースワーカー部門との交流会をしたことがあったので、確認してみるとの意見があった。増田委員より、県MSW協会と米軍病院とで年何回かの連携をして、その内容をまとめてサポートハンドブックに反映してもいいのではないかと、また国立がんセンターの高山先生に諸外国の基本対応方法について問い合わせして、ハンドブックの改訂に反映させてどうか、との意見があった。

(5) 【施策3】 働く世代や小児がん患者への支援の充実

当日資料に基づき、上原委員より、5/20～24の「がんピアサロン」について、5日間で14名の参加で、ピアサポーターの方が戸惑う場面も見られたが、1人ではなく2～3名で対応して頂いたので、いい雰囲気のできる事ができたとの報告があった。今回は、樋口部会長、大久保委員のアドバイザー参加があり、今後の開催についても、場所や開催日時を検討し、部会委員へも参加協力をお願いしたいとの要請があった。

7/21の第2回小児がん経験者の交流会については、約7名の参加があり、1回目は皆さん緊張されていたが、2回参加の方も慣れて和気あいあいと進行できた。会の名称も「Te-da わらば一む」と決まり、連帯感が出てきたとの報告があった。次回は、9月開催予定。

樋口部会長より、那覇市立病院でも「がんピアサロン」を開催したが、夫婦・親子・姉妹のペアでの参加が多く、場所も良く集中することかでき、院内での注目も浴びていろいろな意見が出ていたとの報告があった。上原委員から、出張がんピアサロンもやりますとの広報があった。

【協議事項】

1. 8/2 第2回がん診療連携協議会への審議事項の提出について

【施策1 関連】 地域の療養情報第3版の配布と普及啓発

資料9に基づき、全国的に沖縄県は医師から配っている好事例として紹介されている一方で、がん患者さんにきちんと手渡しされていないとの指摘があったため、配布方法等の改善について、部会としてこれまでに行なってきた対策を協議会で報告することが協議された。

相談支援部会委員が、拠点病院では各診療科の医局会（定例会議）などでの説明を行い、支援病院とがん専門医療機関（沖縄県保健医療計画）（計17病院）には出向いて、医師・看護師・がん相談に携わる方を対象に、第3版の主旨・内容・作成の経緯・活用方法等に

ついて15分～30分程度の説明会を実施した。その中で、外来もしくは病棟にて医師を始めとする医療者から担当のがん患者さんへ、できるだけ早く（告知時）ハンドブックを手渡ししていただくよう協力依頼をした。

2. その他

(1) 第3版の県の在庫について

大久保委員より、第3版の県の在庫状況について、7月現在で第3版の県の在庫が200冊しかなく、各病院とも現在の配布分のみで活用願いたいこと、なお昨年度作成した第2版の県の在庫が2000冊あるため、県としては、第3版の在庫が無くなり次第、第2版を配布するとの連絡があったことが報告された。

また、琉大としても、県に習い第3版の在庫が無くなり次第、第2版を配布することが周知された。その際は、第3版に新規に記載されている事項は印刷して第2版に添付して配布することも検討する。

(2) がん診療提供体制のあり方に関するワーキンググループ(WG)報告書素案について

当日資料に基づき、増田委員より次のような周知があった。

- ①地域がん診療病院の要件について、相談支援センターに関しては、国立がん研究センターによる研修を終了した専従及び専任の相談支援に携わる者を1人ずつ配置することを求めていること、
- ②県拠点病院の要件については、都道府県協議会で共有された事項の情報共有・県内の情報集約と拠点病院への情報発信すること、相談員のうち少なくとも一人は国立がん研究センターの指導者研修（グループワークのファシリテーションスキルを学ぶこと）を修了することを求めていること、相談支援の機能として就労・臨床試験・希少がんに関する情報提供を行うこと、
- ③特定領域がん診療病院は、特定領域のがん種について当該都道府県内の大半を占める診療実績を有し所属する都道府県が推薦することを要件とすると記載されていること、
- ④PDCAサイクルの確保については、県の協議会で検討し県の拠点病院間の情報共有を図り、実地調査を実施しPDCAサイクルを確保するしくみを設けることを求めていること、
- ⑤沖縄県では琉大が担っているが、県拠点病院に県内拠点病院の取りまとめ部門を設置すること

(3) 第2次沖縄県がん対策推進計画について

増田委員より、今年度からの5ヵ年計画において、相談支援と情報提供の分野目標について、8/1のがん政策部会においても協議を行う予定ではあるが、どういう数値目標がデータとして示され、どういう数値をデータとしてとって行けばいいのか、年間計画を検討して頂き、今年度中に何らかの測定を開始していただきたいとの提案があった。

(4) 平成 25 年度の部会事業の進捗確認について

各主担当者から、以下のように進捗報告があった。

- 【施策 1】「地域の療養情報」第 3 版の配布と普及啓発は、現在進行中で部会としては 9 月から改訂に向けて動く予定であるが、今年度は県としては改訂ではなく増版の考えである。評価としての意見集約はした方がよいとの意見あり。
- 【施策 2】 がん相談支援センターの広報については、9/27 にラジオ番組放送を予定。
- 【施策 3】 働く世代や小児がん患者への支援は、ピアサロン(働く世代や小児がん患者への支援を含む)への部会委員のオブザーバー参加の継続。
- 【施策 4】 患者家族満足度調査の実施は、調査票のたたき台を最終確認し、対象を限定してプレ調査を行う。
- 【施策 5】 がん診療拠点病院のがん相談内容の分析は、進行中であり、宮古八重山の導入を 9 月までの中間目標とする。
- 【施策 6】 がん相談員実務者研修会は、1 回目の運営検討会を持ったので、9 月以降に体系的に実施していく。
- 【施策 7】 沖縄県がん相談支援センター相談マニュアル(小児がん対応)は、昨年度のものに変更なし。県外の情報なども集約してはどうかとの意見あり。
- 【施策 8】 相談支援部会活動は、5 月都道府県情報提供・相談支援部会への参加、7 月社会福祉士学会への参加があった。
- 【施策 9】 「患者さんのチェックリスト(下敷きタイプ)」は、まず評価アンケート(案)を作成し、9 月めどに実施の予定。
- 【施策 10】 県内セカンドオピニオンリストは、事務方が作成中で、協議会 HP には半数ほどが公開済み。
- 【施策 11】 各支援病院の常勤相談員の配置・増員については、がん診療提供体制のあり方に関する WG 報告書素案を、北部地区・宮古・八重山の支援病院に送付し、地域がん診療病院の要件を部会全体で周知いただき、人員要求していく。

(5) 「地域の療養情報」第 4 版の作成について

増田委員より、今年度は県としては第 4 版の改訂ではなく増版の考えであるが、相談支援部会としてはどう考えているかとの質問があった。部会としては、第 3 版のアンケートを 8 月中めどに実施し集計を行い、その結果をもとに関係各所とも調整し、第 4 版の改訂を行う方向で進めることが承認された。

3. 次回、平成 25 年度の第 3 回相談支援部会開催日について

第 1 候補日： 平成 25 年 10 月 17 日 (木)

第 2 候補日： 平成 25 年 10 月 31 日 (木)

